

<エペソ人への手紙2章13-19節>

13しかし、かつては遠く離れていたあなたがたも、今ではキリスト・イエスあって、キリストの血によって近い者となりました。14実に、キリストこそ私たちの平和です。二つのものを一つにし、隔ての壁である敵意を打ち壊し、15様々な規定から成る戒めの律法を廃棄されました。こうしてキリストは、この二つをご自身において新しい一人に造り上げて、平和を実現し、16二つのものを一つのからだとして、十字架によって 神と和解させ、敵意を十字架によって滅ぼされました。17また、キリストは来て、遠くにいたあなたがたに平和を、また近くにいた人々にも平和を、福音として伝えられました。18このキリストを通して、私たち二つのものが、一つの御霊によって、御父に近づくことができるのです。19**こういうわけで、あなたがたは、もはや外国人でも寄留者でもなく、聖徒たちと同じ国の民であり、神の家族なのです。**

<テサロニケ人への手紙第一5章11-13節>

11**ですから、あなたがたは、現に行っているとおりに、互いに励まし合い、互いに高め合いなさい。**  
12兄弟たち、あなたがたにお願いします。あなたがたの間で労苦し、主にあってあなたがたを指導し、訓戒している人々を重んじ、  
13その働きゆえに、愛をもって、この上ない尊敬を払いなさい。**お互いに平和を保ちなさい。**

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん!

30度をはるかに超える猛暑の日々が続いた先週一週間もみんなお元気でしたか。暑かったですね。

今週中には雨のマークが多いので、少し気温が下がるかも知れませんが、それでも蒸し暑さは続く見たいです。是非お体を大事にして下さい。先週礼拝中には神の恵みとみなさんの愛と祈りの中三重牧場から美ら牧場が誕生され、本日から正式に毎週 5 時半から福井牧者夫婦の家でスタートする予定です。是非覚えて毎週笑いがあり、涙のある神の恵みを共に体験出来る牧場となるようお祈りをお願いします。

そして、まゆみ牧者と雄生君と満名ちゃんは、出国まで美ら牧場に一緒に参加し、出国してからは、毎週主日ドイツ(デュッセルドルフ)の家で川副ファミリーが中心となって三重牧場は続く予定ですので、三重牧場も忘れず、続けてお祈りと応援をお願いします。

さて、7月24日(アワナの休みのある第4週目)主日2部礼拝直後に、臨時総会を行う予定です。

案件は、『川副浩太(Kawazoe Kota)先生をクリスチャンプレイズチャーチの協力伝道師として迎え入れる件』の為です。浩太先生はアメリカシカゴにあるムーディー神学校の時から我らの教会は支援し、後コロンバス日本語キリスト教会で牧会されていた時にもオハイオ牧場から祈りと支援を送りながら、長く我らと交わって来た先生です。これからまず、約3年間日本同盟基督教団の正教師となるまで、浩太先生を協力伝道師としてあたたかく迎え入れ、我らの教会で共に交わり、共に奉仕出来ればと願っていますので、みなさんもどうかお祈りをお願い致します。

## 1. キリストの信じる我らは神の家族(オイコス)

**エペソ人への手紙2章13-19節**、今日の本文では、神様と遠く離れ、神様と切れていた関係が、イエスキリストを信じる信仰によって、神と和解され、本来通り神様と平和の関係が回復されることになりました。イエス

キリストこそ、二つのものを一つにし、隔ての壁を打ち壊し、真の平和と回復をもたらすことができる神の御子、我らの救い主であります。始まったこの7月中にもどうか大切な神とみなさんとの関係や大切なすべての人との関係を妨げ、邪魔するすべての隔ての壁を打ち壊すことができる、イエスキリストによって、平和の関係を保つみなさんとなりますようにお祈り申し上げます。

イエスキリストによって、救われ、神の平和の関係を保つことになった我々は、神の子どもとされたと約束されています。「しかし、この方(イエスキリスト)を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとなる特権をお与えになった。」(ヨハネの福音書 1 章 12 節)

神の子どもとされたというのは、信じた私たちと神様との関係が「神の家族」になることを明らかに教えて下さっています。今日の本文、エペソ人への手紙2章19節にも、「こういうわけで、あなたがたは、もはや他国人でも寄留者でもなく、聖徒たちと同じ国の民であり、神の家族なのです。」

ここで、使徒パウロは、エペソでイエスキリストを信じている全ての人たちも、同じ神の家族であることを確かめています。

ここで、神の「家族」という言葉がギリシャ語で、「オイコス」です。オイコスというのは、「家族、家庭」という意味です。ギリシャ語オイコスを通して見れば、神によって、生み出され、結ばれ、作り上げられた家族、その神の家族が集って交わり(コイノニア)、共にすることが、家庭(キリストの体なる教会)となるのです。

聖書では、キリストを信じるすべての者たちが、神の家族となり、神の家族としての祝福とアイデンティティをしっかりと保つ生きるように強調し続け、イエスキリストの体に属する教会(ここで、教会とは建物ではなく、キリストを信じる人たちの集い)が、「神の家族共同体」となることを、主は望んでおられたことが分かります。

(1)主イエスが望んでおられた教会共同体は(家族共同体)であった。(マタイの福音書 12 章49-50節)  
「それから、イエスは手を弟子たちのほうに差し伸べて言われた。「見なさい。わたしの母、わたしの兄弟たちです。50 天におられるわたしの父のみこころを行なう者はだれでも、わたしの兄弟、姉妹、また母なのです。」

(2)エルサレム教会も(家の教会、つまり神の家族共同体)であった。(使徒の働き 2 章 46-47 節)  
「そして毎日、心をつにして宮に集まり、家でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、47 神を賛美し、すべての民に好意を持たれた。主も毎日救われる人々を仲間に加えてくださった。」

(3)使徒パウロも信徒同士の間(家族関係)を願っていました。(テモテへの手紙第一 5 章1-2 節)  
「年寄りをしかってはいけません。むしろ、父親に対するように勧めなさい。若い人々には兄弟に対するように、年とった婦人々には母親に対するように、若い女々には真に混じりけのない心で姉妹に対するように勧めなさい。」

ですから、地上初めての教会だったエルサレム教会から、初代教会のほとんどが神の家族共同体として家々で家の教会の形として集まっていたことが分かります。ですから、キリストを信じる人々は、人を見る目を変える必要があります！キリストを信じている人々を、神の家族として受け止め、かかわるべきであり、まだ、信じてない人々も、いつか神の家族となれる存在として、見る目を変える必要があるのではないのでしょうか。今、クリスチャンプレイズチャーチの中に、家の教会牧場の中にいる神の家族であり、必ずいつか

そうなれる大切な存在です！

## 2. 神の家族(オikos)の生き方2つ(オikonomos(管理者)・オikodomeo(立て上げる))

ギリシャ語の「オikosのモス」と「オikodomeo」の語源は、「オikos」とであることが分かります。これらのことばの意味を学んでいくと、私たちの人生に託された真の務めがどのようなものかが分かって来ます。

### ①(オikonomos)神の家族は、神の全ての管理者として生きる

神の家族(オikos)には、神のすべての管理者として生きる存在です。

\*ルカの福音書12章42節「主は言われた。「では、主人によって、その召使いの上に任命され、食事時には彼らに決められた分を与える、忠実で深い管理人とは、いったいどれでしょうか。」

\*コリント人への手紙第一4章1-2節「人は私たちがキリストのしもべ、また神の奥義の管理者と考えるべきです。2その場合、管理者に要求されることは、忠実だと認められることです。」

\*ペテロの手紙第一4章10節「それぞれが賜物を受けているのですから、神の様々な恵みの良い管理者として、その賜物を用いて互いに仕え合いなさい。」

神の家族(オikos)は、神のすべての管理者(オikonomos)として生きるため、この三つを認め、実際行っています。①すべては主のものである ②今自分に与えられているものは、しばらく主から預かっているものである③神の資源を分配する

「オikonomos(管理者)」としてふさわしく従い、行うためには、まず、①すべては主のものであり、主からのものとして認める必要があります。「そして言った。「私は裸で母の胎から出て来た。また、裸でかしこに帰ろう。主は与え、主は取られる。主の御名はほむべきかな。」(ヨブ記1章21節)

みなさんは、今みなさんに与えられているすべてが自分のものではなく、心から神様らのものであることを信じますか。それを頭でただ理解することと、実際信じて行っていることははるかに違うでしょう。

オikonomosは、「管理人」と訳されています。ここで、管理者の意味は、究極的に自分のものではなく、すべての主人は神様であられる、②今自身に与えられているすべては、神様からのしばらく許されている間、預かっているものとして認め、主の御心に従い生き方意味が含まれています。

管理者には、③神の資源を分配する者の意味が含まれています。つまり、分配する者は自分のものを作りだして与える事ではなく、神の資源を必要な人に喜んで分配する、分け与えることを意味します。

神様は、神の家族である我らに神の良い忠実な管理者として、主から預かっているものを必要な人に分け与える生きることをの喜ばれ、望んでおられます。なぜでしょうか。

神ご自身が神の御子を通して、我らの為にそのような模範を示して下さったからです！！

\*ヨハネの福音書3章16節「神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者がひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。」

\*コリント人への手紙第二9章7-8節「一人ひとり、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は喜んで与える人を愛してくださるのです。8神はあなたがたに、あらゆる恵みをあふれるばかりに与えることができになります。あなたがたが、いつもすべてのことに満ちたりて、すべ

ての良いわざにあふれるようになるためです。」

\*使徒の働き20章35節「このように**労苦して、弱い者を助けなければならないこと、また主イエスご自身が『受けるよりも与えるほうが幸いである。』**と言われたみことばを、覚えているべきだということを、私はあらゆることを通してあなたがたに示してきたのです。」

\*ルカの福音書6章32-38節「**与えなさい。そうすれば、あなたがたも与えられます。**詰め込んだり、揺すって入れたり、盛り上げたりして、気前よく図って懐にいられてもらえます。あなたがたが量るその秤で、あなたがたも量り返してもらえらるからです。」

\*マルコの福音書9章41節「まことに、あなたがたに言います。あなたがたが**キリストに属する者だ**ということで、あなたがたに**一杯の水を飲ませてくれる人は、決して報いを失うことはありません。**」

神の家族(オイコス)である我々は、神の御国に向かって歩む者の大切な生き様であると信じます。

オイコノモスは、「主人(神様)」と「仕えている相手」の双方との関係において忠実でなければなりません。

私たちは、預かった賜物によって分け与え、受けた主の恵みを配る管となることです。

## ②(オイコドメオ)神の家族は、人を立て上げる為に生きる

\*テサロニケ人への手紙第一5章11節

「ですから、あなたがたは、現に行っているとおりに、互いに励まし合い、互いに高め合いなさい。」

\*ローマ人への手紙(Romans)15章2節 (もう一つの教会や牧場の集いの目的)

「私たちは一人ひとり、霊的な成長のため、益となることを測って隣人を喜ばせるべきです。」

「オイコドメオ」というのは、本来「家を建てたり、建物を立てる時に、[build]」意味で使われた言葉でしたが、聖書では建物だけではなく、神の家族、人を「立て上げる時(build up)、徳を高める時、勇気をつける」によく使われています。

神様は**私たちが神の家族として下さった意味は、オイコドメオのため**であります。そうであるなら、私たちの反応は互いに諦めないで期待し、人を立て上げることであります。一人ひとりが忍耐をもって変わるよう期待することが人を立てるための第一歩となるでしょう。

神の家族(オイコス)は、神から預かって「オイコノモス(管理者)」と「オイコドメオ(人を立て上げる)」ことを日常生活において、いつも実践し、その生き方を目指して生きます。

始まった7月中にも、みんな神の家族として、すべて主からの物を、主の御心をいつも探り、神が喜ばれるところと人々に分け与えることに大いに用いられますように、家の教会の牧場ででも、教会の中でも、人を立て上げていくクリスチャンプレイズチャーチの全神の家族となりますように主イエスキリストの御名によってお祈りいたします。アーメン！

